



大石田町エトペソラ

「住んで分かった」大石田を発信

大石田町で生活し発見した小さな魅力を、主にこれから観光や移住を考える人へ、インターネットで発信しました。全戸配布の「エトペソラタイムズ」や直接の対話においても同様に考えました。

あえて「地域おこし協力隊」と打ち出さないことで、町の様子をよりリアルに伝えたいと思いました。



全戸配布「エトペソラタイムズ」は全62号を発行

Instagramでフォトコンテスト開催

写真共有アプリを使って、大石田まつりや雪をテーマに写真コンテストを開催しました。インターネット上で大石田町の魅力の発信者を増やしました。



KOE no KURA こえのくら

「何かやりたい気持ち」をサポート

地域を越えてたくさんの声が集まる状況は、町の中にも多くの発見を生みます。

作品の展示販売やワークショップなどの開催を通じ、「何かやりたい気持ち」を持つ人が一歩踏み出すことをサポートしてきました。施設の利用者から新たなファンや仲間が生まれ、そこからさらに、これまでにない層の、町やこえのくらへの出入りが生まれました。



↑ レンタルボックス「KOE no HAKO」での展示販売。

←「何かやりたい気持ち」をサポートするためイベントの主催者と打ち合わせを行い、アイデアを出し合います。



町を「面白く」伝える

地域おこし協力隊 香坂 明さん、遠藤 舞子さんの3年間



地域おこし協力隊として2017年4月に移住した香坂明さんと遠藤舞子さん。移住者としての目線を基準にして、町の面白さを掘り起こし、内外に発信した3年間で振り返りました。

2人が考えた活動方針

- 「大石田に行ってみよう!」
- 「大石田に住みたい!」
- 「大石田って楽しい!」を創造する

町からのミッション

- ①観光物産の振興
- ②移住の促進
- ③産業の活性化
- ④KOE no KURAこえのくら の運営

町を「面白がる」

日常生活や観光であるスポットに行くとき、または移住を考えると、皆さんならどんな理由があれば行動しますか。町から課された4つのミッションを達成するために活動の中で一貫したことは、自分たちが大石田町を「面白がる」ということです。

何かを面白がることは、興味を持ち視野を広げ、頭の中で何かと結び付けて「これなら楽しいな」と考えること。

活動や生活の中で感じた「発見」を、自分自身が面白がりながら解釈することで、大きくアピールしていること以外にも、伝えるべき町の魅力は数えきれないほどあることに気づきました。



「価値をつくる」

活動にあたっては「町の価値づくり」を理想にしました。すでに町の中にある「既存の価値」を改めてしっかり伝え、さらに「新たな価値」を生み出すことで、町外の人からだけでなく、町に住む人が大石田町の価値を再認識するものにしたいと考えました。

特に、こえのくらでの催しは、初めての体験や人との出会い、学びの共有が大石田町の価値の一つになる内容にしようと企画・運営しました。

これらの企画では、町にすでにある価値をお借りして、私たちの活動テーマの達成に近づけることで、大石田町に魅力を感じる人を増やせるように努めました。

